

# 拝礼と拍手の作法

神様に感謝して  
礼を尽くす

神社の参拝の基本は、「二拝二拍手一拝」である。つまり拍手と拝である。参拝はこの二種類の作法が重要なのである。

まず、賽銭を入れて御鈴を鳴らす。そして拝殿の正面に向かって姿勢を正し、軽く一礼する（小揖）。次に深々と二回、頭を下げる（深揖）。これが二拝である。

次に両手を合わせ、拍手を二回打つ。神前では拍手を打つ音が高く響くとよいといわれている。そ

のためにはまず両手を合わせ、次に右手をわずかに下げて最後に拍手を打つと高く響く。両手を合わせて折る。そしてもう一度深く拝（深揖）をしてから、後ずさりして拝殿から退くのが正しい作法である。

拍手の音には  
魔除けの効果もある

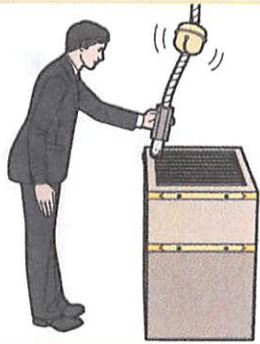
神前で拍手を打つのは、神霊を喚起させ、邪気を祓うためとか、神に対して心から従うという気持ちの表現でもあるといわれる。現在行われている「二拝二拍手

一拝」という神社参拝は、昭和三十三年（1958）年に定められたもので比較的新しいものだが、これらの拍手と拝礼の作法は弥生時代以来までさかのぼる古いものである。ただ、古社では、独自の参拝礼の作法が残っている。たとえば、伊勢神宮では「八開手」といって、拍手を八回打つ古来の作法が行われている。また出雲大社や宇佐神宮では、「二拝四拍手」が伝統的な作法とされている。

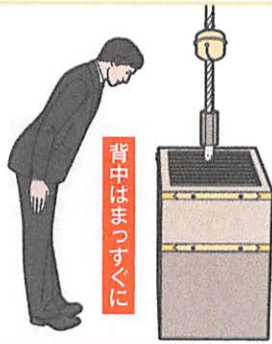
このほか、神道の葬儀である神葬祭では、「偲手」といって、音を立てずに拍手を打つ方法が行われている。

ちなみに、寺院では、拍手は打たず、静かに合掌するのが原則である。神社と混同しないように注意したい。

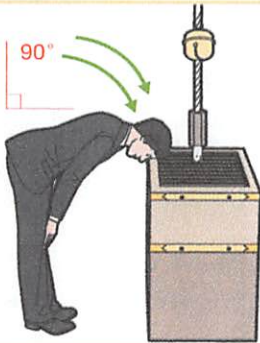
## 参拝の作法



1 賽銭を入れて、御鈴を鳴らす。



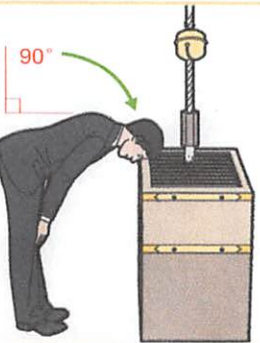
2 姿勢を正し、一礼をする。両手の指先は伸ばす。



3 深く二回拝礼をする。背筋は伸ばしたまま腰から折るように。



4 拍手を二回する。そして再び手を合わせて折る。



5 再び深く拝礼をする。



6 神前から去る前に、最後に一礼をする。

\*拍手：拍手[かしわで]とも呼ぶが、これは「拍」と「柏」を見誤ったためといわれる。拍手は儒教で重んじられる「周礼」という書物にみえる「振動」と呼ばれる所作に由来するためである。